

視 察 報 告 概 要

1 視 察 日 時 平成28年1月15日(金)
午後2時30分 から 午後4時 まで

2 視察先及び視察事項

・視 察 先 戸田市立郷土博物館（埼玉県戸田市新增1707）

・視察事項 戸田市立郷土博物館での取り組みについて

（収蔵庫を中心に）

- ① 博物館の事業概要について
- ② 収蔵庫の概要、予算、利用者の反応
- ③ 図書館との事業連携について
- ④ 課題、展望

3 視察の目的

現在、所沢市では文化財を分散保管しており、保管場所の面積も十分ではなく、長期的な保存にも資料の有効活用にも課題がある。そのため、図書館と同じ建物内に博物館及び収蔵庫を設置する等、先進的な取り組みをされている戸田市の取り組みを視察し、委員会としての今後の審査等の参考とする。

4 視察の概要（戸田市立郷土博物館の事業概要）

まず、熊谷教育委員会事務局副参事（図書館・郷土博物館館長兼務）からの歓迎の挨拶及び戸田市郷土博物館の沿革等について説明があり、続いて、石本委員長の挨拶、吉田郷土博物館学芸員による説明が行われた。その後、質疑応答、郷土資料及び関連施設の見学、植竹副委員長の御礼の挨拶を行い、戸田市立郷土博物館での視察を終了した。

(1) 郷土博物館の概要

① 沿革

郷土博物館は複合施設になっており、昭和58年に竣工しました。同年11月に1、2階の図書館部分が開館し、翌年の昭和59年11月に郷土博物館が開館しましたので、図書館部分が平成25年度に、博物館部分が平成26年度に、それぞれ開館30周年を迎えました。30周年の記念事業として「将軍家の鷹場^{たかば}」という特別展を平成26年度に行いました。このときに鷹狩りの模擬演習として鷹匠のグループが、実際に鷹を飛ばして腕に戻すというようなアトラクションを行いましたが、親子参加で子どもにも体験してもらえ、大変好評でした。なお特別展は48日間の会期でしたが、入館者が3,115人あり、平日を含めても平均64.9人になり、大変好評でした。

② 入館者数

平成26年度においては、常設展示室は年間19,595人が来館しました。開館日数は323日でしたので、1日平均60.67人の来館でした。特別展示室の来館者数は年間11,924人でした。開館日数は143日で、1日平均83.38人でした。

③ 展示事業

平成26年度の展示事業は、第30回特別展として「将軍家の鷹場^{たかば}～戸田筋^{とだすじ}～」、第23回企画展として「彩湖^{さいこ}・道満^{どうまん}の生きものたちの声」、第15回昔のくらし展「たんけん 昔のくらし」といった事業を行いました。

④ 教育普及事業

主に講座を実施しており、子ども向けには、郷土の伝統的な生活や年中行事に関連するもの、大人向けには歴史資料を読み解くアーカイブズセミナー、古文書読解のセミナー、痛んだ古文書を修復する作業の見学会等を実施しております

⑤ 博学連携事業

戸田市内の小学校がバスで来館し、郷土博物館を教室に見立て、小学校6年生と3年生の授業をそれぞれ行っています。また、郷土博物館を積極的に活用して頂くために郷土博物館活用検討委員会を設置しています。委員の委嘱を市内の小中学校から推薦された教員に行い、郷土博物館や博物館資料を利用してもらう事業を研究してもらっています。年度末に博学連携を考える研修会という形で1年

間の研究成果を報告してもらっています。また、博物館には各専門分野の学芸員がおりますので、直接学校に出向いて授業の支援も行っております。

⑥ 資料の収蔵件数

国指定の重要文化財が戸田市には1件もありませんので、市の歴史、特に生活や文化、また自然に関する資料を収蔵しています。点数は要覧にあるとおりです。

(2) 収蔵関係施設の概要

本館は、1、2階が図書館、3階が郷土博物館という構造です。2階の一部にアーカイブズ・センターという部屋を設けており、古文書や地図の閲覧等ができます。ここには、文書書庫と文書図書室があり、それぞれ古文書と行政資料、地域文献、また歴史的公文書といわれる行政が作成した公文書で保存年限が過ぎたもののうち、特に市の歴史を記録し保存していくうえで必要なものを収集・管理しております。

3階は大きく特別展示室と常設展示室という部屋に分かれており、それぞれの展示室を囲うように収蔵庫が設置されています。収蔵庫は第1から第6まであります。

【第1収蔵庫】

昆虫標本、植物標本、地質標本、動物標本等の自然史関係資料の収蔵です。

【第2収蔵庫】

第2収蔵庫と第3収蔵庫は主に歴史資料と民俗資料を収蔵しております。

第2収蔵庫では初期の電化製品、洗濯機、冷蔵庫等の昔の生活の中で使われていたものを収蔵しています。学校給食関係の食器も収蔵しています。また、戸田市は戸田漕艇場が戸田公園の中にございますのでその関係で漕艇競技に関する資料、ボート、オールといったものを収蔵しております。

【第3収蔵庫】

五月人形、雛人形、和船の縮小した模型などを収蔵しております。本市には荒川が通っていますが、かつて水軍で使われていた和船模型です。

【第4収蔵庫】

主に市内で発掘され出土した土器、出土遺物を収蔵しています。また、特別展等で作成した写真パネル等を学校の授業に貸出しを行っていますが、そのパネルもしまっています。

【第5収蔵庫】

特別展示室の裏側にあり、展示ケースや展示関係の物品を管理する部屋になります。

【第6収蔵庫】

漁労具、農具、民家で使われていた日常の生活用具等を収蔵しています。昭和30年代頃までは荒川や市内を流れている河川、田んぼ等で漁労が盛んでした。また、稲作も盛んでした。

【その他】

展示室の裏側の通路に書架を設け、アーカイブズ・センターに収蔵しきれない歴史的公文書を収蔵しています。また、ほかにもいろいろ部屋があり、収まりきらない収蔵資料等をそれぞれ保管している状況です。さらに館外になりますが、川岸という地域に仮設の収蔵庫を平成13年に設置いたしました。軽量鉄骨作りの平屋で、いわゆる倉庫のようなものですが、郷土博物館内で収蔵できない和船や民具等はそこに収蔵しています。

(3) 郷土博物館連郷土予算

当館には非常勤職員を含めまして合計16人が所属していますが、大きく分けて郷土博物館費と市史編纂費という予算に分かれています。郷土博物館費では、非常勤嘱託職員の賃金、展示に係わる印刷製本費、展示ディスプレイ等の委託料が大部分を占めています。

市史編纂費は、もともと市長部局に設置していた市史編纂室の予算を引き継いだもので、主に非常勤嘱託員の賃金と、平成28年の市制50周年記念事業として刊行予定の市史編纂に携わる調査員に対する報償費などを計上しています。

(4) 利用者の反応

常設展示室は、アンケートの回答者層に小学生が多いことから分かるように、小学生の利用が非常に多く、リピーターとして頻繁に来館しています。友達連れ、保護者同伴、また祖父母と共に来館している状況です。その他にも、近隣のデイサービスの方々が週に1回、また月に何回かバスや自家用車で利用しています。

(5) 図書館との連携について

具体的に図書館との連携事業ということで大きく銘打って行っているわけではないのですが、同じ施設にあるため、郷土に関するレファレンスサービスを目的に来館された方にとっては、図書館の資料と郷土博物館資料を1箇所ですべて相互に活用でき、調査・研究に対して非常に利便性が高いものとなっています。利用者だけでなく、職員も気軽に情報共有ができ、スムーズに対応できる体制を整えています。

講座では、図書館・郷土博物館たんけんツアーを年2回行っています。子どもたちにバックヤードを見学してもらうものです。また、司書や学芸員の仕事についての講座も行っています。さらに、特別展示室の展示に合わせ、隣接する講座室に関連図書の貸し出し窓口を設け、相互の利用促進を計りました。

(6) 課題

開館30年を経過し、施設の老朽化、収蔵スペースの不足という問題が出ています。特に空調設備や電気設備、配管等の劣化が著しいところがあります。また収蔵スペースにはかなり資料が詰まっており、しかも毎年増加する状況にあります。

収蔵庫の保存環境について、かつては5年に1度の頻度で全館の燻蒸を行っていましたが、その燻蒸消毒に使用されてきた薬剤が、オゾン層を破壊する物質に指摘されてから、全館燻蒸を実施できなくなりました。しかし、木に穴を開けて卵を産む虫やカビが付着したままで収蔵庫に資料を入れた場合は、他の資料にも被害を及ぼしたり、健康被害も懸念されることから、そのまま持ち込むことはできません。そのため、年1回、外部の機関へ持ち込み、資料に対して個別に二酸化炭素による燻蒸殺菌消毒を行っている状況です。近年、博物館で一般的になってきている全館燻蒸に代わる資料管理の方針、いわゆるIPMを当館でも完全ではないものの採用しています。これは、館内をきれいに掃除し、温湿度などを管理してカビや虫が発生しない状況を作っていく、もし発生した場合には、個別に対応するという手法です。当館の収蔵庫は個別に管理できず、気候の変動や館内の空調の影響をそのまま受けてしまうため、温湿度管理は苦勞しています。また、バグトラップという小さい粘着マットを館内の各所に設置し、館内にどのような虫がいるのかということ今年度から実験的に調査しています。職員が展示等の事業の合間に行っており、虫を一匹一匹探していくという地道な作業であるため、かなり時間がかかりますが、資料の保存のために力を入れて行っています。

資料情報へのアクセスについて、特に当館利用頻度が高いのが写真資料等の貸し

出しです。写真資料や市の広報で使われた写真等は、ガラス乾板やフィルム、紙焼き写真ですので一点ものです。壊れてしまうと修復ができませんので、当館の学芸員立ち会いのもとで直接ご覧いただくということになります。また、職員の勤続年数等による情報の格差を生じやすい状況にあるため、収蔵品管理システムという資料目録をデジタル化する作業を行っています。しかし、膨大な資料があるため、どの程度まで行うかという課題、作業自体にかなり時間がかかるという課題があります。

(7) 展望

館蔵資料のデジタル化による博物館資料の活用の拡大化を図って行きたいと考えています。ただし、当館は郷土の生活に直接関係する資料の所蔵が主だったものであるため、デジタル化には適さないものもあります。そのため、授業等で使えるカリキュラムに沿ったものをデジタル化して活用できるようにしていくことを考えています。

知の拠点としての機能を継続・強化していくため、当館は図書館と博物館、アーカイブズ・センターの機能の充実を図り、公文書館の機能を備えた複合施設として、戸田市に関する調べ物は、ここに来れば解決するという状況をより活用してもらえよう情報を提供していく考えです。博物館資料が図書資料と違うところは、実物資料ということです。例えば古本屋に行けば売っているものではありませんので、後世にしっかり伝えていくということが求められています。

民俗資料には同じようなものがたくさんあり、こんなにたくさん必要なのかと聞かれることもよくあるのですが、市内には、江戸時代にいくつかの村があったため、それぞれの歴史が現在の戸田市を形作っています。市内の各地域の伝統、文化を引き継いだこれら地域のものは、後世に伝えていくために収集・保存しています。ただの桶でも、学芸員が展示などに活用することで知的資源として教育の役に立つもの、後世の役に立つものになってしまうという性質のものがありますので、活用の充実を図っていきたいと考えています。

ただし、資料の中には一点ものもあり、展示や講座での使用により破損の恐れのあるものもあるため、活用と保存の相反する事業を行っているわけですが、バランス良く保存と活用を推進していきたいと考えています。当館は博物館ということでは社会教育の施設ですから、後世に歴史と文化を伝える資料を保存し続けるとともに、

展示や講座などで市民に還元していく機会を増やしていくことを考えています。

◎質疑応答

質疑 職員の学芸員は、学芸員という枠で採用されたのか。

応答 専門で考古学を勉強しており、関連の前職に就いていたのですが、今は一般行政職として採用されています。

質疑 今後、別のところに異動になる可能性はあるのか。

応答 過去にいた学芸員が市民課に異動した例があります。

質疑 燻蒸について伺いたい。5年程度で全館燻蒸ができなくなってしまったということで、外部へ持ち込んで実施しているとのことだが、全館燻蒸していた頃と手間や費用面は増えたのか。費用の違いも分かればお教え願いたい。

応答 全館燻蒸していたころの費用は資料がありませんので不明です。持ち込み燻蒸は、今のところ年間約20万円で、全館燻蒸をした場合、おそらく数百万円かかりますので、費用面ではかなり安くなっています。ただ全館燻蒸しておけば、カビの発生を定期的に抑えられますので、全館的に資料の保存に効果があると考えられます。現在は、少しずつ公用車で東京都港区まで運んでおり、燻蒸を行う手間はあり、一気にやるか少しずつやるかということになります。

質疑 常設展示の利用状況についての増減等の傾向を知りたい。

応答 アンケートによると、当館の来館のきっかけの多くが図書館を利用しに来たら博物館があったからということのようです。そのため1階のロビーに、最近、郷土博物館は3階です、図書館はこちらですといったシールを床面に貼っています。館内のサイン類を増やすことで郷土博物館の認知度を上げた効果といえます。また、ロビーに展示ケースを出して資料を展示し、PRしています。ほかにもPRとしては、チラシやポスター等を定期的に講座の一環として小学校に配布していますが、配布回数を増やすと来館が増えますので、広報活動に力を入れています。ただ、アンケートは常設展示に来た方に行っているのも一つの傾向として捉えています。利用が伸びている理由には、戸田市の人口が増

えていることもあります。当市では、東京都のベッドタウンとして若い世代の転入が増えており、子どもが多い現状があります。今から10年前に小学校の新設校を作ったほどです。こうした現状の中で、市内の全公立小中学校の児童・生徒を対象に博物館事業として当館での授業を行っています。そのため、特に児童の利用が増えています。今後子どもが減っていくと、博物館の来館者数は減っていくと推測しています。

質疑 子どもが増えているということもあり、小学生のリピーターが多く、アンケートを見ても回答する人には小学生が非常に多い。学校の中でこの民俗資料が非常に根付いていると思われるが、具体的に、学校にはどのように活用され、授業に活かされているのか。

応答 例えばよく全国的に行われているのが、授業の中で出てくるものを貸し出すというものです。小学校1年生の国語の授業で行われている「たぬきの糸車」という单元があるのですが、子どもたちは糸車を見たことがありませんので、糸車を貸し出したりしています。また、戦時中の生活に使われていた道具の名前が出てきても想像出来ないのを貸し出したりしています。社会科で戦争の関係の資料を持って行って空襲ですとかの資料を見ることで学習補助として役立てています。今年度では、東京オリンピックの関係の展示を行っていたのですが、ちょうど小学校の授業が戦後のオリンピックに入るところでしたので、現代史を学ぶ導入として当館に来ていただきました。見学する等、先生方がどういったところで資料を使えるかというのを工夫したり、学芸員と相談しながら取り組んでいます。

質疑 アーカイブズ・センターについて、一般にも公開しているとのことですが、もう少し具体的に説明をお願いしたい。

応答 主に古文書の閲覧をしていただきます。申請すると閲覧することができまして、古文書類、地図等や関係する資料を実際に見ていただけます。それとは別に保存年限が満了した行政文書の収集を行っていて、資料の編纂にも役立てています。

質疑 図書館と一緒にやっていくということなのか。

応答 図書館でレファレンスを行う場合は、図書、保管されている書物、戸田市の行政資料で回答するのですが、より一歩何か調べたいときに、博物館のアーカイブズ・センターを利用して頂き、より深い原文を読んでもらったりできるよう、ご要望にお答えしています。

質疑 収蔵スペースが飽和状態とのことだが、新しい資料を収集したいような場合や、寄贈の申し出があった場合には、どのように判断をして収蔵されているのか。

答弁 明確に収集基準は設けていないのですが、毎年、洪水があったときの船の寄贈の申し出があります。しかし、大型なので収蔵が厳しく、お断りさせていただいています。どのようなものなのかお話を伺い、大きさや貯蔵資料等を考えながら、受け入れさせて頂いています。文書等や写真類は積極的に受け入れさせて頂いています。ケースバイケースで対応している状況です。

質疑 他に保管している施設はありますか。

答弁 館内にある収蔵庫以外には、小学校に一部郷土資料室があります

質疑 図書館と博物館を同じ建物内につくるという発想はどのようなところから出たのか。

答弁 はじめから複合施設を建てようという話がありました。作るからには立派な良いものをつくり、図書館と博物館を別々のものにしてしまうのではなく、ひとつにして大きな建物にし、30年、50年と管理できるものにしようという構想で、まず基本計画の中に掲げ、実現したものです。

5 所感

今回の視察の目的である図書館に文化財の収蔵施設があるという点では大変珍しい事例であった。昨今全国的に図書館の機能が注目を浴びているが、図書館は教育委員会所管というのが大原則だが、文化財に関する所管課も教育委員会ということで、い

い意味でのコラボレーションができていた。視察の翌日からも昔の展示物をする予定だった。

文化財の展示物を見る来場者（または来館者）は小中学生が多いことは全国的な傾向だが、図書館での展示のため市民に文化財が目にとまるケースもより増すことが期待できる。所沢市も図書館に関しては本館と分館7館を持つが、今後、文化財の展示を通して郷土愛育成のためにも図書館での更なる利用を検討するべきではないだろうか。